

## 幼児期の教育・保育の量の見込みと提供体制の確保方策等

### 1 第三期のポイント

量の見込みについては、少子化により全体として減少している。なお、就業状況の変化により、需要が高止まりしている3号認定の量の見込みについても、令和7年度をピークに減少に転ずる見込みである。

1号認定の確保方策については、量の見込みの大幅な落ち込みと連動し、減少を見込んでいる。また、2・3号認定の確保方策については、待機児童の発生している地域や保育需要の高い地域で定員増を図るほか、量の見込みが減少する地域においても確保方策を一定規模維持するため、増加する見込みである。

### 2 幼児期の教育・保育の量の見込みと確保方策（県全域）

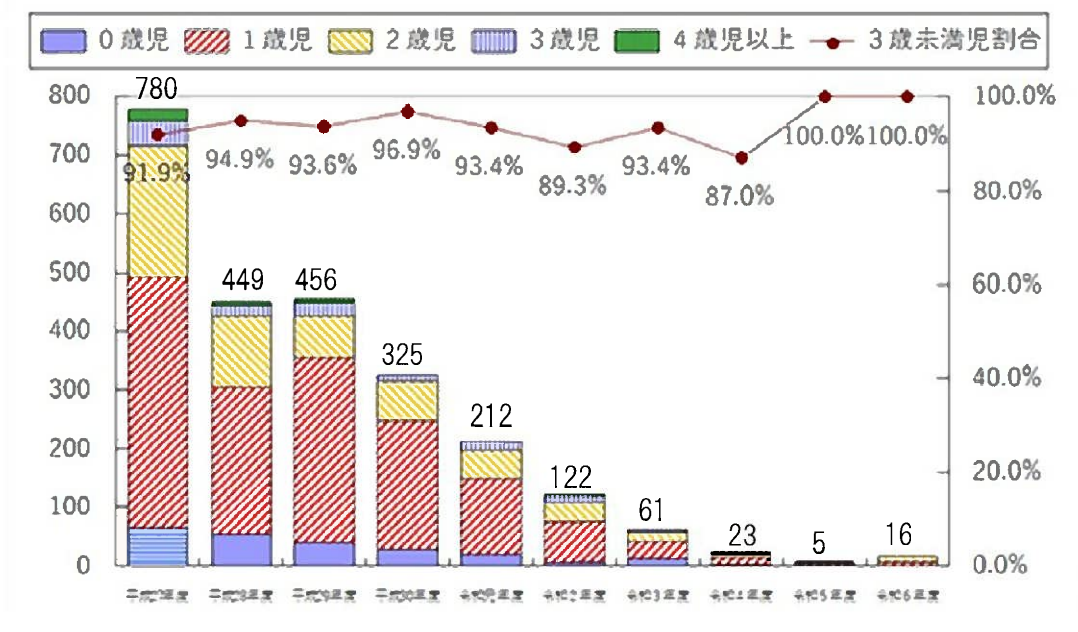
#### ○第三期計画

【 県全域 】		7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
1号認定 3歳未満 教育のみ	量の見込み	28,219	26,291	24,391	22,935	21,863
	確保方策	44,761	44,238	43,840	43,588	43,476
	過不足 (確保方策-量の見込み)	16,542	17,947	19,449	20,653	21,613
2号認定 3歳未満 保育の必要性有	量の見込み	40,785	39,869	38,656	37,677	37,125
	確保方策	45,687	45,633	45,879	46,107	46,144
	過不足 (確保方策-量の見込み)	4,902	5,764	7,223	8,430	9,019
3号認定 0歳～2歳 保育の必要性有	量の見込み	32,752	32,422	32,456	32,210	31,871
	確保方策	34,661	34,681	34,967	35,162	35,246
	過不足 (確保方策-量の見込み)	1,909	2,259	2,511	2,952	3,375

#### ○第二期計画

【 県全域 】		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
1号認定 3歳未満 教育のみ	量の見込み	39,643	37,790	35,620	33,791	32,700
	確保方策	61,710	60,949	60,027	57,953	57,606
	過不足 (確保方策-量の見込み)	22,067	23,159	24,407	24,162	24,906
2号認定 3歳未満 保育の必要性有	量の見込み※	42,186	41,644	40,850	40,697	40,535
	確保方策	45,220	45,660	46,041	46,108	46,238
	過不足 (確保方策-量の見込み)	3,034	4,016	5,191	5,411	5,703
3号認定 0歳～2歳 保育の必要性あり	量の見込み	33,017	32,864	32,819	32,589	32,260
	確保方策	35,088	35,780	36,293	36,439	36,609
	過不足 (確保方策-量の見込み)	2,071	2,916	3,474	3,850	4,349

【参考：年齢別待機児童数の推移】（単位：人）



### 3 待機児童の解消を目指す取組（現状分析と今後の対応）

- 待機児童が発生している自治体においては、子育て世帯が多い一部地域において、低年齢児からの保育需要が増加し、申込者に対する保育士不足により待機児童が発生

- 市町の子ども・子育て支援事業計画に基づき、各市町の保育需要に応じて、保育施設の設置が進むよう、補助制度活用の支援を行い、待機児童の9割以上を占める3歳未満児の定員の確保を引き続き促進

（具体的な取組）

- 就学前教育・保育施設整備交付金を活用し、地域の保育ニーズに応じた定員の確保を支援

- 保育士不足を解消し、多様な保育ニーズに対応した質の高い保育サービスを提供するため、保育士の確保や定着促進

（具体的な取組）

- 保育士資格取得を目指す学生を対象とした修学資金等の貸与による人材確保
- しずおか保育士・保育所支援センターによる潜在保育士等の就労支援
- 処遇改善につながる専門性の高いリーダー的保育士の育成研修の実施
- 保育現場に精通した専門家の施設巡回支援による定着促進